

「ジェンダー・ギャップ」 7月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

「女の子ってものは、木のぼりしないものなのよ。竹馬乗ったらおてんばで、打ち独楽するのはお馬鹿なの。私はこいだけ（これだけ）知ってるの、だっていっぺんずつ叱られたから」（金子みすゞ『女の子』より）この詩は「女の子はこうあるもの」ということを大人から叱られながら教えられた体験を端的に表しています。

みすゞの過ごした時代と現在とは考え方も変わってきていると思いますが、現実には今なお、男女の役割を固定的にとらえる意識が社会に根強く残っており、家庭や職場においてさまざまな差別を生む要因となっています。「男らしく」「女らしく」と育てられ、無意識のうちに男女の固定的イメージが植え付けられていきます。男らしさ・女らしさのように、社

会的、文化的につくられた性差をジェンダーといいます。ジェンダーは、性別の違いから生じるのではなく、社会が求める「らしさ」の教育やしつけによって後から身に付けた行動や態度と言えます。

スイスのシンクタンク、世界経済フォーラムが、各国の男女平等度の順位付けを発表した2022年度版の「ジェンダー・ギャップ（男女格差）報告」によると、日本は調査対象146カ国中116位でした。この調査は、政治・経済・教育・健康の4つの分野で男女参画の度合いを評価して指数化したものです。日本は教育・健康ではほぼ男女平等になっているものの、政治・経済面では、下位にとどまっています。

男女共同参画社会は、あらゆる分野において男女が平等に活躍し、性別に関わりなく、もてる能力を十分

に発揮できる社会の構築を目指しています。そのためにも、今の状態をよしとせず、積極的に変えていこうとする意識と行動が重要だと考えます。

